日本遺族通信
令和8年1月15日
第901号

一般財団法人日本遺族会
〒102-0074 東京都千代田区九段南一丁目六番五号 九段会館テラス四階
電話　03－3261－5521
振替　00160-6-25389
編集発行人　盛川英治
毎月1回15日発行
定価　1部130円（税込）

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

全国戦没者遺族大会

財務、厚労大臣等に面会
要望事項完全実現を目指す

令和8年度政府予算編成に向けて、本会は平和の語り部事業を中心とする要望事項の完全実現を目指し、第80回全国戦没者遺族大会を挙行し、記憶の継承を普遍的課題と提起し、平和を伝え、繋ぐ団体として社会に寄与する決意を表明した。大会後、財務大臣、厚生労働大臣等に面会し、学校教育に取り入れられている語り部事業の拡充強化に理解を求めた。



全国戦没者遺族大会で意見発表する山下裕子常務理事＝12月5日、自由民主会館で

日本遺族会は、令和7年12月5日、全国戦没者遺族大会を開催。全国より約300人の遺族が参集し、衆・参の自由民主党国会議員151人（代理含む）が出席した。冒頭の挨拶で、水落敏栄本会会長は、全国各地で次世代に語りかける本会の語り部の回数が1500回を超えている反響に触れ、遺族会の語り部が聞く人の心に届くのは、戦没者である父と、父亡きあと必死で守ってくれた母の記憶を伝えたいとする気迫であり、人生をかけた語り部だからだと述べ、「私たち遺族会に語り部事業をもっとやらせてください」と訴えた。

そして、自由民主党代表鈴木俊一幹事長、林芳正総務大臣、田村憲久遺家族議員協議会会長代行、長坂康正厚生労働副大臣が来賓として挨拶し、「平和の語り部事業を通して社会に奉仕する活動を支援していく」、「戦争の悲惨さ、平和の尊さが次世代に継承されていくことを切に願っている」など、それぞれ激励の言葉が述べられた。また、堀内詔子総務副大臣、仁木博文厚生労働副大臣、支部遺族会青年部長である中野英幸総務大臣政務官（埼玉県）、栗原渉厚生労働大臣政務官（福岡県）も出席した。

意見発表では、山下裕子常務理事（長崎県連合遺族会会長）が、戦死した父、戦後の暮らしと母の労苦、自身が参加した遺骨収集の体験等を伝え、戦争の記憶を伝承する語り部は戦没者遺族の使命であり、事業拡充は遺族の願いだと訴えた。

大会終了後、遺族代表は、地元選出自民党所属国会議員に対し陳情した。水落会長と静岡県代表は片山さつき財務大臣に、國政隆昭副会長、安齋満副会長は滋賀県代表と上野賢一郎厚生労働大臣、有村治子自民党総務会長、甘竹勝郎常務理事と岩手県代表は鈴木幹事長に面会し、次年度政府予算案に、平和の語り部事業をはじめとする本会の要望事項が反映されるよう陳情した。

令和8年度政府予算

平和の語り部大幅拡充
予算2億6千万円へ

平和の語り部 大幅予算増額

政府は、12月26日の閣議で令和8年度政府予算案を決定し、本会の最重点要望事項である平和の語り部事業は、令和7年度補正・8年度予算をあわせ2億6千万円と大幅に増額された。

これは、本部・支部が一丸となって関係省庁、自由民主党選出国会議員等に陳情を重ねた結果であり、学校教育の場でも積極的に取り入れられている遺族会の語り部の意義が認められた証左である。

この予算増額により、令和8年度は戦争の記憶を次世代へ伝え、繋ぐ平和の語り部事業のさらなる拡充強化が求められ、47都道府県支部遺族会が揃って、全国規模でさまざまな形態の語り部を展開することによって、その活動の真価が問われることとなる。

※予算額等の詳細は次号に掲載



昭和百年「記憶の継承」を普遍的課題へ
「平和の語り部」の先頭に立つ決意を胸に

日本遺族会会長　水落敏栄

ご遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えのこととと拝察いたします。日本遺族会会長として、年頭所感を表明いたします。

終戦八十年の節目となった昨年は、「記憶の継承」が社会的課題として各方面で取り上げられ、遺族会の語り部も大きく注目を集め、全国で一五〇〇回余、聴講者は十万人を越えました。中でも、学校での講話は昨年度の二倍以上となる約五百回、聴講者は四万人を越えました。ご協力いただきました全国のご遺族皆様に感謝申し上げます。こうした活動が高く評価され、「平和の語り部事業」の予算は、七年度補正・八年度本予算あわせ、二・六億円と規格外の大幅予算増が決定されました。

この大きなうねりを令和八年度に確固たるものに出来るか、そのために戦争の記憶の継承に応えうるのは遺族会と示さなければなりません。何より戦没者遺族こそが語り続けなければ、かけがえのない父、馬車馬のごとく働いた母、生涯癒えることのない傷を抱え歩んだ我々遺児の存在をも、この歴史上からついえ去る日は眼前に迫っています。戦争の記憶が消滅した先に、平和が維持できるとは到底思えません。

令和八年は昭和元年から起算して満百年を迎えることから、国は官民をあげた「昭和百年施策」に取組むとしています。主な施策の具体例に掲げられる「平和の語り部事業」にいかに寄与できるか、本会にその真価が問われています。

この上は、多くの語り部活動者の育成が急務です。「伝える、繋ぐ」をテーマとし、まずは、体験者である遺族が次世代青年部へ伝え、学び、共に後世代へ記憶を繋ぎましょう。同時に、遺骨収集、慰霊碑の維持管理、遺留品返還等、あらゆる活動を通して、平和を語り継ぐ意識を醸成し、機運を高めることが重要です。

昭和百年、「平和の語り部」を通して、記憶の継承を普遍的課題と提起し、その先頭に立つ決意を新たに、戦後百年まで活動してまいりましょう。

声なき声

年末年始にかけて世界では、きな臭い軍事行動が展開された▼一つは、中国軍による台湾を包囲する形の軍事演習「正義の使命―2025」を12月29日から3日連続で行ったことだ。台湾の国防部は31日午前6時までの24時間に中国の軍用機延べ77機が台湾周辺で活動し、うち延べ35機が台湾海峡の暗黙の休戦ラインである中間線やその線を超えたと発表した▼二つ目は、1月3日未明、アメリカ・トランプ大統領が「麻薬対策」を名目に、南米ベネズエラで軍事作戦を実施してマドゥロ大統領夫妻を拘束し、アメリカへ移送し、法の裁きを受けさせると発表したこと。同国の民主主義を回復するためとはいえ、武力による体制転換を決断したことが最善の策であったかは疑問が残る▼大国によるこの二つの軍事行動は、力による支配が正当化されることに繋がりかねない。特に今回の中国軍の軍事演習地は、日本最西端の与那国島から111キロ離れた台湾の周辺で行われ、晴れた日には与那国島から台湾の山々が見えるという、正に日本のすぐ目の前で行われたことは、到底看過できない。そしてこれ以上、中国と台湾との緊張関係が続かぬことを願わずにはいられない▼今後、無辜の命が亡くなる事態にならぬよう、戦没者遺族の一人として、出来る限り「平和の尊さ」を訴えて行きたい。（M）


令和8年 新年の靖国神社

謹賀新年

一般財団法人
日本遺族会
会長　水落敏栄
副会長　國政隆昭
同　安齋満
他役職員一同

賀正

洗心懇談会（順不同）

東郷会
大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
特攻隊戦没者慰霊顕彰会
三笠保存会
中央乃木会
千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
隊友会
日本郷友連盟
水交会
陸修偕行社
靖國神社
英霊にこたえる会
日本遺族会

戦80周年 終記念事業

女性部平和の語り部研修会

尾辻名誉顧問叙勲祝賀会開催

日本遺族会女性部は終戦80周年記念平和の語り部研修会を12月6日、7日に開催。初開催だった昨年は「自分史から語り部へ」をテーマに研修の模様が即日報道されるなど注目を集めた。今年度は「女性部に求められる語り部」をテーマに事業を伝え繋ぐ役目を担う女性部の意識の共有、機運が高められた。夕刻には尾辻秀久名誉顧問の叙勲祝賀会も開催された。

冒頭挨拶に立った水落敏栄本会長は、遺族会の語り部が評価を受ける理由を記憶の風化が加速し、このままでは父、母、自身の存在をも失いかねない切迫感から生まれる「伝えたい」とする気迫が聞く人の心に響くからと示し、記憶の風化を防ぐべく女性部から語り継ぐ機運をさらに広げてほしいと訴えた。

続いて挨拶に立った田中玉喜女性部長は、昨年の研修会で一年後、何かお土産話を持って参集しようと呼びかけたことに触れ、各支部で取組まれた成果を学びあいましょうと激励した。

研修会は昨年の自分史アンケートをきっかけに制作された動画視聴と学校での講話に必要な内容を話し合う座談会とした。

はじめに本部が研修会のねらいを説明。学校講話の回数が急増し児童・生徒がより理解できる内容を学びたいとする要望に応え、各地の取組みを学ぶことに。加えて昨年の自分史アンケートから多くの女性部員が語り部になったことを挙げ、より多くの語り部の育成、次世代青年部への継承、機運の醸成を、前身の婦人部同様、「伝える、繋ぐ」役割を女性部に担ってほしいと依頼した。

次に女性部の記憶を青年部が聞き取り制作した動画の視聴。山形県遺族会阿部博子女性部長は、昨年の研修会後、女性部から語り部になろうと呼びかけ、まずは自身の父の思い出を披露。青年部の発案でインタビュー形式の動画を制作。仏壇にしまわれていた写真、手紙を手に記憶を伝える内容。まずは女性部員から語り部となってもらうための動画とし、学校での講話に使用する動画は、美術系大学に通う阿部部長の孫も加わり青年部が協力し新たに制作することが紹介された。

その後、ブロックに分かれ座談会。座談会に先立ち実施されたアンケート内容（自分史アンケートの取組み、年齢に合わせた伝え方、内容、学生への質問）を元に話し合われ、各ブロックとも熱心な意見交換がなされた。

本部は、アンケートの中から、自分史を基にした学校での語り部のシート（兵庫県）、地区別研修会のすすめ、報告用資料、報告、地区別研修会の実施資料（兵庫県、長崎県）、女性部研修会から取組んだ自分史アンケート（宮崎県）、自分史アンケートから講話者を育成する展開（岡山県、宮崎県）等の資料を提供した。

夜には、尾辻秀久名誉顧問の桐花大綬章を祝う会を開催。遺族代表として、比例4期、鹿児島選挙区選出2期、合計6期36年、厚生労働大臣等要職を歴任、参議院議長就任は徳永正利元本会事務局長以来。平成23年には本会会長に就任、今夏で政界を勇退、現在本会名誉顧問。

冒頭の祝辞に立った水落会長は、偉大な大先輩との思い出として若き日、南方の遺骨収集で同じ床で眠ったアクシデント、遺骨収集先で長女、次女の誕生の報に接し、祝ったエピソードを披露した。

田中女性部長は、赴任先で同僚となった教員が尾辻名誉顧問の親族で、今回の叙勲に際し託された手紙を披露した。

祝賀会には、有村治子総務会長、野村哲郎元農林水産大臣（遺児）、中野英幸総務大臣政務官、栗原渉厚生労働大臣政務官（共に戦没者の孫）が駆け付け、遺家族議員協議会高市早苗、田村憲久両会長代行、加藤明良参議院議員（戦没者の孫）からの祝電が披露された。

有村総務会長は平和に対する切実な思い、議員としての在りよう等、薫陶を受けた思い出を披露、参議院の良心と称えた。

同郷の野村元農水大臣は、学生時代、寮での出会い、遺族会事務局に勤務されていた尾辻顧問の母上との思い出を披露し、まさか国会でご一緒できるとは夢にも思わなかったと苦労を偲び、偉業を称賛。志を継いで、国会で唯一の遺児として、平和を求めてゆくと決意を語った。

大場盛子、濵順子両副部長からの花束贈呈を受けた尾辻名誉顧問は、婦人部の支え、遺児の絆がなければ今日はなかったと謝辞を述べ、夫人、三女（尾辻朋実参議院議員）と共に頭を下げた。

女性部による盛大な拍手の後、安齋満副会長の音頭で大きな万歳が三唱され、温かな祝宴は幕を閉じた。



山形県女性部・青年部が協力して制作された動画の視聴＝12月６日、九段会館テラスで



女性部代表の大場・濵両副部長より花束を贈られる尾辻名誉顧問＝12月６日、九段会館テラスで

第10回定期講話会

女性部研修会兼ね開催

12月7日に開催の第10回定期講話会は、女性部研修会（別掲）2日目の研修を兼ねた。

はじめに昨年の女性部研修会自分史アンケートから制作した秋田県の動画の視聴。素晴らしい自分史アンケートの内容を学校講話等に使用する動画に制作したいと思い立ち、青年部に協力を依頼。11分類に分け、文章はそのまま引用。理解を促すため、絵や音楽を多用。絵（イラストレーター）、ピアノ演奏（ピアノ講師）は青年部が依頼・監修、総編集は佐藤勝也青年部長が担った。女性部の思いを伝えたい一心で、総制作時間は200時間を超えたと話した。エンドロールの「朧月夜」は涙声の合唱となった。

ナレーションを担当した笠原幸子部長は県内では秋田市の「土崎空襲」以外、ほぼ空襲被害はなかったが遺族の戦中戦後は苦難の連続。浜田セチ子副部長はどれも自身のことに思え涙を堪えナレーションをしたと語った。

次に前日のブロック座談会の発表。議題は自分史の取組、学校講話における伝わりやすい内容。

第1B 紙芝居の使用、制作の検討。女性部・青年部協力による動画制作。講話場所の確保、親会と女性部の意識の共有、事務局の協力が不可欠。

第2B 授業参観の重要性（父兄の聴講）、女性部・青年部の協力が鍵。婦人部の活動を組織次世代に伝えたい。

第3B 最寄りの忠霊塔の意味、現状を伝える。遺族会の説明。満州引揚、日章旗返還、遺族大会での講話による広報。

第4B 青年部の記憶の聞取り（ヒストリートークからPP作成）、小学生には、食事の話に特化。修学旅行の事前学習向け紙芝居、対馬丸PP資料を作成し提供。誰でもが講話者になれるように。

第5B 修学旅行の事前学習、自分史を使用した講話型、大学生との取組。

当日は参加した二松学舎大学の学生への質問も相次いだ。問①：どんなことを聞きたいか、答①：遺族会の結成経緯、教科書では分からない体験談、共に考える座談会。問②：定期講話会参加のきっかけ、答②：所属ゼミの准教授の授業（日遺訪問。活動、語り部事業紹介）。問③：語り継ぐためできること、答③：報道、教職に就いて伝えたい。問④：秋田の動画を見た感想、答④：忘れられた日常、戦争の傷は今も続いてると伝わった。最後の歌は分からなかった。

田中玉喜女性部長による総評では動画制作に敬意、活発な座談会、大学生との意見交換は非常に有意義だった。女性部が先頭に立ち、記憶を伝え、繋ぎ、来年も元気で集まりましょうと呼びかけた。

終わりの挨拶に立った國政隆昭副会長は、実りある会だった。女性部の溌溂さに安堵。語り部は遺族会の生命線。組織全体での取組を促し、閉会。

その後、靖国神社に団体参拝し、幕を閉じた。



定期講話会・学生の思いに耳を傾ける女性部＝12月７日、九段会館テラスで



秋田県女性部・青年部が協力して制作された動画の視聴＝12月７日、九段会館テラスで

御社奉斎

遺族の健康祈願

12月22日、本会事務所の御社奉斎が執り行われた。

御社奉斎は午前11時、靖国神社の奉仕で執り行われ、祝詞奏上に続き玉串が奉奠された。

御社奉斎には盛川英治事務局長他事務局職員が参列し、戦没者遺族の健安と本会事業の目的達成を祈願した。

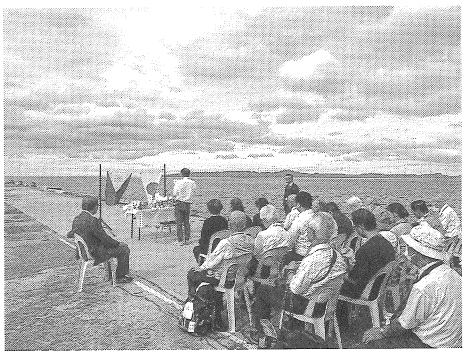
本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報は「個人情報保護法」の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

好業
友事
霊善
慰親

フィリピン最後の訪問へ
35年間慰霊と友好親善重ねる

戦没者遺児による慰霊友好親善事業は本年度で終了する。先の大戦で51万8000人が戦没された激戦地フィリピンは、事業開始の平成3年からコロナ禍で中止された期間を除き、ほぼ毎年実施され、35年間で延べ4600人余の遺児が比島各地にて慰霊と友好親善を重ねてきた。次世代への記憶の継承が醸成された本団の行程を紹介したい。



輸送船舶と運命を共にし海没された亡き父に語りかける＝12月13日、レイテ島オルモック湾アルブエラで

水落敏栄本会会長を総括団長、甘竹勝郎総括副団長（本会常務理事、岩手県遺族連合会会長）とするフィリピン慰霊友好親善訪問団（団員91人内付添者16人含む）は、12月10日靖国会館に集合し、結団式。比島地域最後の実施に伴い、本部から新たに2点が説明された。戦没者への慰霊に加え、旧戦域での友好親善を図る本事業の体験を伝える語り部の育成のため、自分史・家族史シートを配布し、協力を依頼。あわせて報道各社への取材協力も説明された。

靖国神社で旅の安全を祈願し、羽田空港および成田空港よりそれぞれ出発、6班に分かれ比島各地で慰霊祭を行った。

○A班　在フィリピン日本国大使館を表敬訪問後、リサール公園で訪問団を代表し献花を行い、カランバ収容所（日本人捕虜収容所）でマキリン山を望み、東方山地方面ではイポ、モンタルバン、ワワ、アンチポロ、ボソボソ、他にマニラ湾海岸で慰霊祭。

○B班　ルソン島ザンバレス州マシンロック、洋上関係者はリンガエン湾で、バギオ西方イリサン、同東方のボゴト、カヤパで慰霊祭。

○C班　クラーク観音、タルラック、カバルアン、ボンドック道17キロ地点、ボンドック道ハイエストポイントで慰霊祭。

カバルアンの丘慰霊碑訪問に際し、地元市役所が警官の先導で「送迎バス」を手配。慰霊碑周辺も観光課により適切に管理されていた。

○D班　オリオン峠、キャンガン、ヤンビランで慰霊祭。

○E班　ネグロス島マンダラガン山麓、サラビア海岸、バコロド、ミンダナオ島タモガン、カタルナン、ダリアオ海岸で慰霊祭。ダバオ日本国総領事館を表敬訪問。

○F班　セブ島セブ観音、レイテ島アルブエラ、オルモック、カンギポット、ビリヤバ、ブラウエンでそれぞれ慰霊祭。パロの海岸で海に花を手向けた。

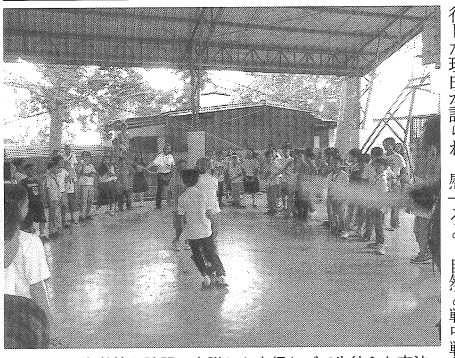
○学校訪問

A班ボソボソ、B班バギオ、C班マバラカット、D班カバナツアン、E班ダバオ、F班タクロバンでそれぞれ団員が日本から持参した学用品や衣類等を寄贈した。

日比両国の国旗を手にした生徒による歓迎、大縄跳びで子どもたちと交流、語り部をアレンジした挨拶をする等、各班それぞれ友好親善を図った。

○次世代への継承

青年部（戦没者の孫）の付添者からは、最後の機会に参加する父母に同行した理由が語られ、慰霊祭に涙し、一緒に日本に帰ろうと語り掛け、巡拝後は慰霊を共にして触れた積年の思いを次は自身が伝える立場になりたいと抱負が聞かれた。



イヌマン小学校を訪問、寄贈した大縄とびで生徒らと交流＝12月15日、ミンダナオ島ダバオで

昨年6月の洋上慰霊に続き、今回も語り部研修を行い、メディアも同行した。語り部研修では、既に語り部として活動している参加者から学校での講話の様子が伝えられると、自然と戦中戦後の労苦が語り合われ、次世代へ平和の尊さを伝えようとする機運が生まれた。

また、同行取材はCBC（中部日本放送）、映像提供によるNHK福井の2社で行われ、本事業の意義が伝えられた。

12月16日は、ルソン島ラグナ州カリラヤの「比島戦没者の碑」前で、在フィリピン日本国大使館より大野祥次席公使、青木史子一等書記官参列のもと、全班が一堂に集まり全戦没者追悼式を厳粛に挙行し、英霊に感謝と哀悼の誠を捧げた。夜には日本国大使館、フィリピン政府観光省関係者を招いた懇談会を開催し、35年にわたる本事業実施への協力に対する感謝を伝えた。

所期の目的を果たした一行は12月17日、全員無事に帰国した。

パラオ諸島遺骨収集
集団埋葬地等から91柱

日本戦没者遺骨収集推進協会は、パラオ諸島戦没者遺骨収集団を、12月1日から12月18日の期間で派遣し、本会から遺族3人が参加協力した。

派遣団は、ペリリュー島班とアンガウル島班の2班で編成され、過去に収容された遺骨で、DNA鑑定により日本人戦没者と特定された91柱を現地で焼骨し、送還した。

ペリリュー島班は、アメリカ公文書館情報により特定された東山東の集団埋葬地（埋葬者数1086人）で収容した遺骨で初めて日本人と特定された3柱を含む64柱と、ゲドブス島で収容された3柱、併せて67柱の遺骨を焼骨。また、アンガウル島班は、同じく公文書館情報で特定されたサイパン日本人墓地（埋葬者数358人）から収容した遺骨24柱を焼骨した。

派遣団は、焼骨した遺骨を奉持し、12月17日に帰国した。翌18日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で遺骨引渡式が挙行され、上野賢一郎厚生労働大臣、長坂康正厚生労働副大臣、栗原渉厚生労働大臣政務官（福岡県遺族連合会青年部長）をはじめ、遺族代表、国会議員、関係団体代表等が見守る中、派遣団員から厚生労働省職員へ遺骨が引き渡された。



戦没者遺骨を収容し本会代表で「追悼の辞」を読み上げる団員＝12月12日、パラオ諸島アンガウル島「サイパン日本人墓地」の戦没者追悼式で

慰霊碑等調査事業実施
パプアニューギニア各地で

日本遺族会が厚生労働省から委託を受け実施している海外民間建立慰霊碑等調査事業で、水落敏栄本会会長（他事務局1人）は、11月15日から25日の期間で、パプアニューギニアのブーゲンビル島、ソハノ島、ニューブリテン島ラバウルで9基の慰霊碑を調査した。

調査の目的は、戦友会、遺族会等の民間団体が建立した戦没者慰霊碑の維持管理状況を確認し、地権者、管理者から聞き取った内容を踏まえて、移設又は埋設等の適切な整理を行うことである。

ブーゲンビル島では、車両で、舗装されていない悪路をアラワまで約5時間、さらにブインまで約3時間かけて踏査した結果、慰霊碑4基のうち3基を移設又は埋設対象とし、1基を現状維持とした。移設又は埋設対象とした慰霊碑については、今後建立した団体と協議し、同じく本会への厚生労働省委託事業である海外民間建立慰霊碑移設等事業で対応を検討する。

また、ソハノ島の慰霊碑2基、ラバウルの慰霊碑3基は、碑自体の状態も良好で、管理者によって定期的に草刈り等の清掃もされているため、管理状況を良好と判定し、現状維持とした。



地権者と慰霊碑の移設予定地を視察＝11月19日、ブーゲンビル島ブインで

本会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申しあげます。

なお、賛同者の都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合があるため、省略します。

賛同者名（敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）

清水須美子、加賀谷綾子、シオイリトモヒロ、イシザキヒロユキ、サトウタケヨシ（以上、12月1日から12月末日まで）

皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善、戦没者遺骨収集事業等のさまざまな遺族会活動に利用させていただいています。

日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申しあげます。

●郵便振替
00130-2-694929

●みずほ銀行　九段支店
普通預金　0980030

※口座名は：一般財団法人日本遺族会ヤサイ ニホンイゾクカイ

天皇皇后両陛下 愛子内親王殿下 昭和館を行幸啓

天皇、皇后両陛下は、愛子内親王殿下をご同伴され、日本遺族会が運営する昭和館を行幸啓になった。終戦80年となる昨年は、4月の硫黄島訪問を皮切りに激戦地沖縄、被爆地広島、長崎等をはじめ、海外モンゴルでも慰霊を重ねられ、節目の締め括りとなった。皇太子時代にご一家で訪問された平成27年以来、2回目、即位後初となる。

12月21日、天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下が昭和館を訪問された。

ご一家は、夕方に到着され、水落敏栄本会会長、上野賢一郎厚生労働大臣、伍藤忠寿館長がお出迎えし、戦後80年の特別企画写真展『石川光陽写真展　戦時下の東京』と常設展を視察された。

石川光陽は昭和2年に警視庁へ入庁し、警察官の立場から昭和を撮影した人物で、昭和館では9600点あまりの写真を収蔵している。

特別企画写真展は、戦後80年を記念して、令和6年11月から令和7年12月まで約1年間、館が所蔵する石川光陽の写真から厳選し、3期に分けて紹介してきた中から、特に要望のあった第2期「戦時下の東京」をリバイバル展示する内容となっている。

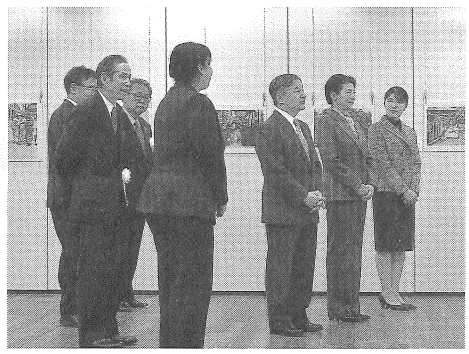
ご一家は40点の写真を見て回られ、天皇陛下は「いい状態で残っているのですね」、皇后陛下は「貴重な資料ですね」と述べられた。

また、常設展では、昭和10年頃から30年代までの戦争の記憶と国民生活上の労苦を伝える実物資料、写真等を、さらには「遺された家族」戦没者の妻、遺児の展示では、昭和28年8月に第2回熊本県遺児団として靖国神社に参拝した遺児の感想文をご覧になった。

戦地に赴く日本赤十字社救護看護婦に贈られた寄せ書きの前では、同社嘱託職員として勤務する愛子さまは「女性が書いたのですか」と熱心に質問された。

次世代の語り部や同館説明員へのお声かけ、水落会長、上野大臣、伍藤館長、説明した職員によるご懇談の場も設けられた。

戦没者遺族をはじめ、国民が経験した戦争の記憶を次世代へ継承する同館の見学は節目の締め括りとなった。



天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下が行幸啓＝12月21日、昭和館で　（写真提供＝昭和館）

愛しきものへ

良い子供になつて下さい

陸軍大尉　阿波　健次

昭和二十六年五月十三日
三重県上野市小玉町にて戦病死
三重県阿山郡大山田村出身　五十二歳

暢子殿

お父様の留守中は第一に体を丈夫にし、第二にお母様の言附、先生の教を守り、第三に姉様と仲良くして良い子供になつて下さい。

一、何でも食べる様にならなければ強くなれません。お父様も兵隊様と一しよに、どんな物でも食べるわけです。これも戦争だ。勝つ爲には体が大事だと考へて何でも食べる事。

二、運動を良くし戸外野辺に遊んで、良い空気に日光にふれる事。

三、勉強はよくする方ですから心配せないでよろしい。

四、女学校に入る爲、先生や姉様によく教へてもらつて下さい。

戦争から帰る時は立派な体で、かしこい女学生になつて居るのを楽しみにします。

父より

【令和八年一月靖国神社社頭掲示】
愛しきものへ

愛子内親王殿下 チャリティ上映会にご出席

天皇皇后両陛下の長女愛子内親王殿下は、11月27日、イイノホールで行われたチャリティ上映会にご出席された。

映画は激戦地ペリリュー島の戦いを題材にしたアニメで、平成28年より青年誌で掲載、多数の賞を受賞している。

作者の武田一義氏は戦後生まれの50代。本作のきっかけは戦後70年に天皇皇后両陛下（当時）が慰霊訪問されたニュース。戦史研究家の平塚柾緒氏の協力を得てごく普通の青年が戦場で体験する戦闘などが描かれている。この程、終戦80年に劇場版アニメとなった。

集団埋葬地が見つかった同地の遺骨収集の推進等のため、上映会の売り上げの一部は日本戦没者遺骨収集推進協会（以後、推進協会）、日本赤十字に寄付され、遺骨収集や人道支援に使われる。

愛子内親王殿下を出迎えた水落敏栄推進協会会長（本会会長）は節目の年の慰霊訪問への感謝を伝えると、「お父様は山形で亡くなられたそうですね」とお声掛けを賜った。

上野賢一郎厚生労働大臣、パラオ大使、声優にあたった俳優等も来場し広く報道された。世代間を越えて戦争について考える機会となる本作をぜひ多くの読者に観てほしい。

平和の語り部事業 自治体等の協力を得た事例

今年度の語り部事業は（11月末時点、予定含む）1500回を超えた。各地域で語り部の実施、広報が重ねられている。本事業の推進には、自治体の協力が欠かせない。自治体等の協力を得た事例の一端を紹介したい。

○県庁主催平和記念講演

11月8日、福岡県主催平和講演として田中玉喜本会女性部長が語り部を披露した。当初8月に計画されたが豪雨により延期となった。約1000人収容の会場には知事、県議会議長のほか行政関係者、遺族や一般聴講者が多数出席した。

田中氏は父を亡くした後の自身や家族の労苦を伝えると共に、大刀洗飛行場跡の記念館、新聞掲載記事をきっかけに知り合った戦没者の孫の画家丸山里奈氏との出会い、兵士の油絵展示に展開させ、記憶の継承を訴えた。

○市主催研修会

11月11日、君津市遺族会研修会にて特別弔慰金と語り部の研修が行われた。本部担当者より特弔の意義、支給法延長に至る運動、附帯決議に書かれた記憶の継承が語り部事業の推進に繋がることが説明された。会には首長、県議、市議も出席。遺族はもとより自治体への広報にも繋がった。長年市政に携わられる小林喜久男会長はじめ、遺族会事務局を務める君津市社会福祉協議会に感謝したい。

○学校での講話

各県で事業をけん引する講話者の多様な活動を紹介。鹿児島県吉見文一氏は高校の文化祭において語り部講演。佐賀県西田富子会長はろう学校で、田中玉喜本会女性部長は特別支援学級で語り部を行った。より伝わるように改良を重ねた内容に学校側から感謝が伝えられた。この他、学童クラブ、コミセン、公民館など多様な場所、聴講者に向け語り部が行われている。

今後も試行錯誤は続く。



フランスから平和講演にかけつけた画家の丸山里奈氏（戦没者の孫）＝11月8日、福岡市FFGホールで

九段短歌

作品をお寄せください。

選者　村田　信昌

「安心あれ」戦地の手紙常ならぬ楷書に父は本心ひそむる　青森県　田中　恭子

忠節を心に誓い身を投じ紙の位牌は涙でちぎれ　東京都　木村百合子

戦没の父に報告九〇〇号遺族通信仏前にて読む　山梨県　三森　一雄

戦死報届き泣き伏す母の庭六歳のわれ庭を駆けにき　山梨県　土屋　喜雄

出征の前の写真に吾を抱きし見知らぬ青年わが父と言ふ　熊本県　高木　容子

征きしまま帰ることなく八十年DNA鑑定託し父を待つ　長崎県　安原　恭子

――◇――

本年も皆様にとりまして健やかな一年となります様、心からご祈念申し上げます。さて、正月行事のひとつに〝書初め〟がございます。新年の抱負や目標を清らかな気持ちで文字に込める古くからの習慣で、我が国では新しい年を迎える大切な行事とされてきました。今月のお歌に「安心あれ」戦地の手紙常ならぬ楷書に父は本心ひそむる」とありました。戦地での困難な情況とは裏腹に、家族に要らぬ心配は掛けたくない、書き殴りではなく丁寧な楷書で無事を装われたお父様の優しい心遣いが推し量られる切ないお歌でした。

（選者）

地方だより

各支部遺族会で実施された大会等は次の通り。

▼香川県　10月25日
終戦80年香川県戦没者慰霊大祭（285人）

▼島根県　11月6日
令和7年度沖縄・島根の塔」追悼式（30人）